

# Global Indian International School 訪問

押上第二幼稚園 副園長 石井 愉美子

## 1 はじめに

研修初日となる 2023 年 8 月 23 日の午前、私立学校教員海外研修団は Global Indian International School を訪問した。当校はシンガポールの北東側の Punggol という地域にある。Punggol は海にほど近く、川と緑のある美しい住宅街として有名だ。その一角にある当校は、2002 年に設立された East Coast Campus に次いで 2008 年に開設された学校だ。「SMART Campus」と呼ばれ、専門的スキルを伸ばすことを目的とした設備があり、多様な国籍とバックグラウンドをもつ生徒が国内外から集まっている。

本研修の目的は、ICT を活用したシンガポールの先進的な教育現場や「STEAM 教育」の実践を視察し、それを我が国の教育に生かしていくことにある。数学的思考に優れたインドの教育とシンガポールの ICT や将来に生きる教育の両者が織りなす実践について、自らが見聞きし学んだことを述べていく。

## 2 学校（施設）概要

### (1) 施設の様子

まずバスを降りて目に入ったのは、まるでショッピングモールのように大きく近代的で、カラフルなキャンパスだ。初めに案内されたのは、保護者や入園希望者の対応を行う Visitor Center だ。訪問当日は、オープンキャンパスが行われており、多くの家族が来校していた。私たち研修団を温かく迎え入れてくださった Mamta 氏が、動画を用いて学校の概要を説明してくださった。



外観（公式 HP より抜粋）



Visitor Center 内部

### (2) 学校の沿革

Global Indian International School は 2002 年に設立され、世界各国に教育の場を広げてきた。学校の支援機関である Global Schools Foundation は、世界

10か国に45のキャンパスを展開している。「21世紀型の教育」を掲げ、国際的なカリキュラムを取り入れた高度な教育システムは、400以上の受賞歴があるそうだ。

### (3) 教育の特色

児童は「国際カリキュラム」と「インディアン・セントラル・ボード・カリキュラム」のいずれかを選択することができる。「国際カリキュラム」を選択した場合、小学部では国際的バカロレア初等教育プログラムを用いた探求学習により、好奇心や思考力を養う。中学部では国際的に評価の高いイギリスの「Cambridge curriculum」で幅広い強化学習やスキルを身に付けていくことができる。Mamta氏によると、卒業後に世界各国の大学へと進学する生徒が多くいるという。そして、Global Indian International School が力を入れているのは学業だけではない。小学部から高等部までの生徒を対象としてスポーツやアート、奉仕活動などを積極的に行い、リーダーシップや社会性を育む教育に力を入れている。

## 3 教育環境

### (1) “THOUGHTS”room (平和について考える部屋)

学校の概要を聞いた後、Mamta氏の案内で校内見学へと進んだ。初めに案内されたのは、扉に“THOUGHTS”と書かれた部屋だ。中央に悠然と構えるガンディー像。壁にはネルソン・マンデラやマーティン・ルーサー・キング牧師の言葉が描かれていた。当校では人種間のハーモネーション（共生）を大切にしており、全ての生徒に平和教育を行っている。



ガンディー像

“THOUGHTS”room は、様々な国籍やバックグラウンドをもつ人々で構成されるシンガポールの信条を象徴しているといえよう。

### (2) 安全で充実した教室

教室を見学する中で印象に残ったのは、デジタル技術によって生徒の生活・学びの質を高めている点だ。教室の入口には顔認証システムがあり、生徒のロッカーもデジタルキーによって管理されていた。各ホームルームにはデジタルボードが完備され、教師だけでなく生徒もアクセスできる。生徒が iPad を同期してプレゼンテーションを行うこともあるという。

また、教室の壁やホワイトボードには生徒の制作物や課題が所狭しと掲示されていた。印象的だったのは「Digital Media NOW and THEN」と題した課題だ。

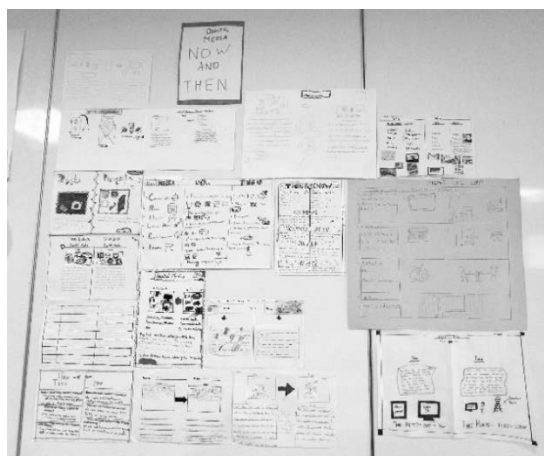


HR入口にある顔認証システム

昔（1980～1990年代）と現代のメディアを比較し、その変遷を捉えてポスターにまとめていた。シンガポールでは、一人一台のタブレット学習がスタンダードになっているが、手書きで色彩豊かにまとめられたポスターを見ると、タブレット上では学ぶことのできないアートやプレゼンテーション能力にも注力しているようだ。生徒の身近な事象に焦点を当てた体験型学習を垣間見ることができた。



デジタルボードが完備されている



生徒が作成したポスター

### (3) 最先端の教育環境

「Smart Campus」と呼ばれる本校では、最新のデジタル技術によって、21世紀を生き抜くための多様な力を身に付けることができるという。中でも私たち視察団の目を惹いたのが、ラジオルームとTVスタジオだ。ラジオルームは完全防音の部屋に最新の録音・編集設備があり、インタビューやナレーションなど実践的なスキルを体験できる。同じくTVスタジオにも最先端の収録設備が整っており、カメラワークやアニメーションを実践している。生徒が就職活動に向けた制作を行うこともあれば、小学生が職業体験として活用することもあるそうだ。幼い頃から本物に触れることで、デジタル技術に慣れたり、高いスキルを身に付けたりすることができる。他にも、1万6000冊の蔵書がある図書館でiPadの貸し出しが行われていたり、調理室では教員の手元を映し出すモニターが完備されていたりと、デジタル技術によって、質の高い教育環境が各所にあった。



ラジオルームの本格設備



最先端のTVスタジオ

## 4 幼児教育

シンガポールの就学前教育には、2～4歳を対象としたNursery School、そして5・6歳が通うKindergartenやプレスクールがある。Global Indian International Schoolでは、2歳半から6歳までを対象に、伝統的なモンテッソーリの手法に最新技術を融合させた「Global Montessori Plus」というカリキュラムを採用し、子どもの好奇心を刺激する環境を備えている。私たちが見学したのは、4～5歳のプレスクールだ。2つの教室にはそれぞれ18名の幼児に対して担任教諭が1名、補助を行う教諭が1名つき、さながら小学校の授業のような教育が行われていた。1つのクラスでは、ワークブックを使ってアルファベットの学習が行われ、他方では食品分類について学んでいた。子どもたちは椅子に座って保育者の話に耳を傾け、教師が時おり投げかける質問に対し挙手して答える。教師は生きる上で必要な知識について幼児が日常で関わるものと関連させながら伝える。まさに「STEAM教育」の入門だ。「遊び」を通して幼児の学びを深める日本の幼児教育と比較すると、その教授法は大きく異なり私は衝撃を受けた。まだ幼い子どもたちに授業形式で教育を行うには、教師の高い技術が求められるだろう。より幼い時期から子どもたちの思考力や意欲を育むための一貫した教育が行われていることは、想像に難くない。



アルファベットの学習



教師が質問を投げかける様子

## 5 おわりに

Global Indian International Schoolには、さまざまデジタル技術によって、生徒が実践的なスキルを身に着けることのできる教育環境があった。一見、最先端の設備に注目されがちだが、それらはあくまで手段であって、質の高い教育カリキュラムが土台になっている。リーダーシップを育む活動や多様な人種間の共生など、人格形成に力を入れることで、将来社会で活躍する人材を育てていた。また、幼児教育においては、幼児に対する目標設定や子どもの思考力を引き出す教師の技術、一貫した教育の重要性に改めて気付くことができた。

最後に、私たちを温かく迎えてくださった Global Indian International School の皆様、今回の研修にご尽力くださった私学財団をはじめ多くの方々、そして支えてくださった視察団の皆様にご感謝の念を表したい。



Mamta Jain 氏と視察団

参考： Global Indian International School Preschool HP Kindergarten School - International (Nursery) Preschool in Punggol & East Coast, Singapore ([globalindianschool.org](http://globalindianschool.org))